

科目名	あそび基礎演習		担当教員	深谷ベルタ・古山 律子 田中 葵		
			担当形態	複数及びオムニバス		
テキスト	特になし	単位数 授業形態	4単位	演習	開講時期	通年
講義概要						
■到達目標■						
<ul style="list-style-type: none"> ・幼児の遊びとその他の表現活動を支えるための基礎知識、並びに保育者に期待される基礎技能を習得し、活用できる。 ・“柔軟な発想力”を獲得し、授業の学びを保育の中で工夫しながら活用することができる。 						
■授業のテーマ及び概要■						
<p>本授業は、一年を通して「音楽表現」「身体表現」「造形表現」という3つの分野について学び、「言語表現」と合わせて4分野を統合／網羅するワークショップも経験し、表現された内容に対して共感的に受け止める姿勢を形成していきます。</p> <p>各分野の概要は以下の通りです。</p> <p>◆音楽表現では、グループワークを通して「音や動き」による様々な表現を経験します。「音楽」は単体で存在するものではなく常に「動き」や「遊び」により表現となり得るものであり、広い空間を使い、動きながら活動していきます。更に、身のまわりにあるものから音を探し出し、友達と音を重ね合わせていくおもしろさも味わうなど、音を使ってどのような表現や遊びが造り出せるかを学びます。このような取り組みから、保育の中で可能となる音遊び、素材あそびなど、音や音楽に関わる活動の意味を理解すること、及びグループワークを通して友達の表現から学び、自分自身の表現の可能性に気づくようになることを目標とします。</p> <p>◆身体表現では、思い切り体を動かしたり、丁寧に身体感覚に耳を傾けたりすることを通して、体を動かす楽しさを味わいます。また、さまざまなテーマに基づいて、仲間と共に身体で表現する楽しさも味わいます。それらの活動を通じて、自分の身体が作り出す形や動きの幅を広げ、仲間と共に動きをつくりだしながら、多様な動きに伴う全身を使った表現を身につけることを第一の目標とします。保育者の表現豊かな身体は、子どもの表現を引き出す要因の一つとなるからです。また、様々な人と関わる中で、自分の身体表現（自分の身体感覚、他者との距離感、動き方、自分の動きの嗜好）を見つめることも目指し、ダイナミックで繊細な身体の面白さを学ぶことも目指します。</p> <p>◆造形表現では、何かを描いたり作ったりして、こころや手を動かして、目に見える形にして行きます。保育の中でよく使われる様々な素材を知り、道具の使い方も覚えます。なかなか容易に思いつかない使い方も学び、あるいは気付いて、自分でも挑戦します。様々な素材や道具を試し、組み合わせ、実験するような感覚で楽しみ、子どもたちもするように、なぜ、どうしてこうなるの、ということに驚いたり、面白がったり、考えたりして頂きたい。何かを表現すると、どうしても自分の感性や考え方が表に出ますが、自分の感性や考え方は永遠と変わらないものではありません。自分で育てることもできるものです。ここでは上手に絵を描く必要はありません。</p>						
■授業計画■						
<p>年間を通して3つのグループに分かれ平行して行われ、ローテーションをしながら展開する授業です。基本的な造形・音楽・動き（身体）の要素を押さえながら、その応用や発展形として以下の合同ワークショップへの準備も進めます。合同ワークショップでは、造形・身体・音楽・言語表現との関連性について学びます。</p>						
<p>◆音楽表現</p> <p>第1回 からだの動きと音（わらべうた、手あわせ歌）</p> <p>第2回 身のまわりの素材を使った様々な表現</p> <p>第3回 合唱</p> <p>第4回 リトミックの基礎</p> <p>第5回 音楽劇づくり</p> <p>第6回 からだを使った音楽づくり（ストンプ）</p> <p>第7回 トーンチャイムの演奏、様々な楽器による伴奏（ピアノ、ギター、小打楽器） オルゴールを使ったアンサンブル（簡易伴奏と即興演奏）</p> <p>第8回 こどもの表現をみること、きくこと</p> <p>◆身体表現</p> <p>第1回 リズムとからだを使ったコミュニケーション</p> <p>第2回 日常生活での身体表現を誇張した遊び、極限の動き</p> <p>第3回 五感を意識する</p> <p>第4回 物を使わない運動遊び、状況に応じた展開方法</p> <p>第5回 いろいろな体の形に挑戦：身のまわりの物と体の形、ポーズから一連の動きへ</p> <p>第6回 動きの連鎖に挑戦：即興表現を通じて仲間とつなげる動き</p> <p>第7回 ことばとからだ：オノマトペを使って遊ぶ</p> <p>第8回 自分たちでつくるダンスの動きと構成</p> <p>◆造形表現</p> <p>第1回 造形的視点① 色に注目して色遊びを楽しむ</p> <p>第2回 造形的視点② 線や面に注目して何かを描いてみる</p> <p>第3回 造形的視点③ 素材を組み合わせ、立体表現に挑戦する</p> <p>第4回 自然素材① 砂遊びを楽しむ</p> <p>第5回 自然素材② 葉っぱや小枝で表現することを楽しむ</p> <p>第6回 自然素材③ 紙素材の特性に注目し、工夫して使ってみる</p> <p>第7回 自然素材④ 糸で遊ぶ</p> <p>第8回 自然素材⑤ 風と遊び、風を楽しむ</p> <p>◆合同ワークショップ型授業（年間6回の総合表現及びレポート課題）</p> <p>第1回 新聞紙という素材から多様な遊びを引き出し、仲間と親しむ</p> <p>第2回 パネル・シアターを作り、演じて遊ぶ</p> <p>第3回 学園祭の準備に参加してみる</p> <p>第4回 光と影で表現を楽しむ</p> <p>第5回 土粘土で遊ぶ</p> <p>第6回 1年の活動をふりかえり、課題レポートを作成する</p>						
■準備学習■						
<p>学業時間内の体験活動が基本となる演習のため、円滑に活動できるよう素材や道具を各自で用意する必要があります。（特記事項を参照）</p>						
■評価方法■						
<ul style="list-style-type: none"> ・授業での取り組み（製作物や実技で確認）— 30% ・授業への参加状況（ワークショップの積極的な取り組み）— 50% ・課題レポート — 20% 						
参考文献	必要に応じて資料を配布する。		特記事項	<p><造形表現授業で準備する物></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハサミ、カッターナイフ、ホチキス、黒の油性マーカー、液体糊、セロテープ、絵筆（太さの異なるもの3本）。 ・その他、指示があった素材、道具等。 		
卒業・免許状・資格との関連	幼稚園教諭免許状必修 保育士資格必修		幼	教科に関する科目		
			保	保育の表現技術		